

## 令和元年度第2回射水市地域公共交通活性化協議会 会議録

- 1 開催日時 令和元年11月7日(木) 午後2時～午後3時20分
- 2 開催場所 射水市役所(本庁舎) 2階会議室201・202
- 3 出席者 岩田会長、川腰副会長、林委員、高松委員、釣谷委員、宮腰委員、作道委員(代理原田氏)、水上委員、上田委員、山崎委員(代理宮嶋氏)、澤井委員、坂井委員、中村委員、豆川委員、山下委員、谷内委員(代理出口氏)、高坂委員、佐々木委員、長谷川委員、清水委員、米本委員、荒谷委員、島崎委員  
事務局 原市民生活部次長、星野生活安全課長、久々江課長補佐、北川主任、宮林主任
- 4 欠席者 上野委員、白川委員、島倉委員、石橋委員、武部委員

### 5 会議概要

#### (1) 開会

岩田会長挨拶

#### (2) 協議

「射水市地域公共交通網形成計画(素案)」について  
(事務局から説明:資料・補足資料)

#### (委員)

前回の会議では、複数の委員からまちづくりとの連携に対する指摘があったと記憶している。前回からの将来イメージが変更されているが、変更に至った議論の経緯をご教示いただきたい。また、59頁には、デマンドタクシーを含め20路線中11路線において、見直しに関する記載が示されており、非常に意欲的と感じている。ただ、路線によって見直すべき路線と利用促進を図る路線があると考えられ、見直す路線と判断するための基準があれば、教えてほしい。さらに、路線ごとに分析していることはよいと思うが、最終的にどのような路線網になるか、また、50頁の路線図には重複があるから見直す旨の記載があり、そのような内容も記載しつつ、もう少し突っ込んで示してもらえるとありがたい。

(事務局)

将来イメージについては、都市計画マスタープランの将来都市構造図と整合を図り、変更した。本市においては多核連携のまちづくりを進めていくこととしているため、将来イメージにおいても小杉駅と新湊を連携することを強調した内容となっている。また、前回示した将来イメージにおいては矢印として示していない箇所もあり、矢印を記載することで拠点としてのメリハリを出していることや現状の交通結節点となっている地点を明示したところが主な変更点である。路線の見直しや利用促進についてであるが、コミバス路線において利用が低調な路線は見直す必要がある。一方、路線の見直しによって公共交通空白地域ができるだけ生じることのないよう、他の路線の組み合わせでカバーする等の対応を来年度、本格的に検討したいと考えている。コミバス路線とは別に資料をつける等の工夫を検討したい。

(委員)

コミュニティバス以外の公共交通機関を全て図に落として最終的な路線網を示してほしいということではなく、少しでも重複していること等を示していただきたいという意図である。路線単位ではなくエリア単位で粗々と概要を示したものでもよいと思う。また、前回、地域間連携軸が2本あったが、1本となっているが、その理由を教えてほしい。

(事務局)

庁内や議会からの意見を踏まえ検討した結果、都市計画マスタープランにおける都市中核拠点に位置付けられる新湊複合交流施設と小杉駅を結ぶことを、より明確にすることもあり、地域間移動基幹軸の1つを地域間移動支援軸に落として示している。さらに、利用が多いと思われる交流拠点やコミュニティ拠点の位置づけを考慮して、将来イメージを変更している。

(委員)

目標値の設定について、路線バスの目標指標は満足度のみとなっている。利用者数の把握が難しいということか。83頁の全体マップ作成における工程が令和2年度から3年度にかけてスケジューリングされている。マップ作成はもう少しスケジュールを早めに行えばと思うが、いかがか。最後に84頁の商店等と連携した企画乗車券について、令和2年度が空白になっているが、理由があれば教えていただきたい。

(事務局)

路線バスの指標について、路線バス事業者から数値をいただければ記載したいと思っているので、改めて確認したい。全体マップについては、路線再編のスケジュールを考慮して幅を持たせた期間に設定している。商店等との連携については、すぐにでも動けることかと思うので、改めて実施時期を検討したい。

(委員)

目標値について、各公共交通機関における利用者数の目標が示されているが、当該交通事業者と調整済みの数値と理解すればよいか。

(事務局)

詳細な調整はこれからではあるが、各事業者の総会資料等を基に設定させていただいている。

(委員)

本計画においては射水市が主体となり、策定するものであるが、交通事業者とともに取り組む計画であるため、連絡調整を密に行っていたきたい。また、活性化再生法の基本方針において、本計画の事業については新たに実施する事業のみならず、既存路線の維持に関する継続事業や公的支援を伴わない民間事業も可能な限り網羅的に記載することが望まれるとされているため、考慮してほしい。49頁の路線バスとコミュニティバスとの役割分担・連携強化や52頁の住民等主体の地域交通の導入検討、72頁のスクールバスの活用と路線バス等の役割分担が示されており、具体的には次年度以降と承知しているが、道路運送法上、できる範囲に限られる場合もあるため、運輸支局輸送監査部門に事前に相談してほしい。また、他の市町村においては、既存の交通事業者に相談せず、自家用旅客運送を検討するケースがあり、そのような場合は交通事業者ともめることが多い。事業者と相談したうえで検討いただくよう、お願いしたい。グリーンスローモビリティにおいても交通状況を踏まえて警察との協議をお願いしたい。最後に、進捗管理について、具体的な評価手法や時期が明確にされていない印象である。策定の基本方針や他都市の計画事例についても適宜、確認いただきたい。

(事務局)

新たな事業に取り組む際には制度等を勉強したうえで、確認させていただきたいと思う。また、進捗管理についても他の自治体の計画等を確認して取りまとめていきたい。

(委員)

60頁には運行財源について触れられているが、この計画を実施す

るうえで、市の予算がどの程度必要なのか把握しないといけないのではないのか。財政担保がないと良い計画であっても絵に描いた餅になるため、計画の中で財政上、どのような対応をするのか示さないといけないと思う。この計画は市の中でどのような位置づけで、どの程度配慮されるものなのか説明いただきたい。また、ふるさと納税の実績と活用事業を見たが、公共交通施策に関するものはなかった。ただ、ふるさと納税が活用されている事業の中に公共交通に関するものが多くみられたため、公共交通に投資するきっかけとして、工夫できないものか。少なくとも5か年の計画において、わかる範囲でも財政的な数字をはっきり示すべきかと私は思う。

(事務局)

財源については、24頁にコミバスの運行負担金や運賃収入を記載している。コミバス事業は総合計画における実施計画に位置づけられており、一般財源を確保している状況にある。今後も継続して、持続的な公共交通を確保するための方針を本計画に示していることをご理解いただきたい。また、運転手不足等もあり、年々、運行負担金が増加することが予想され、現在のサービスレベルを可能な限り維持できるよう、運行の効率化等を図りつつ、対応していきたいとの考えから、目標値においても、効率化と利用促進を進めることを前提に、1人当たりの運行負担金の目標を設定している。ふるさと納税については担当部局にご意見を申し伝えたい。

(委員)

これからの5か年の施策に対して、これまでの予算より拡充するのか、しないのかを示すべきと思い、意見した。

(委員)

射水ベイエリアにフットボールセンターが整備されると聞いているが、それに合わせて、公共交通路線は見直されると認識してよいのか。また、フットボールセンターは本計画期間内に整備されるのか。わかる範囲でスケジュールを教えてほしい。

(事務局)

公共施設配置の変化に応じて路線は見直すこととなる。また、フットボールセンターの整備スケジュールについては担当課において検討段階であり、はっきりした段階で改めて関係者と相談したいと思う。

(委員)

運転手不足の話があったが、その点も含め、交通事業者から意見はないか。

(委員)

バスよりタクシーの方が厳しい。先週、東京に出張に行った際にタクシーを利用したが、ドライバーは東北の方がほとんどであった。トラックの運送も同様であり、リクルート先が東北になっている。富山県呉西地区においても、運転手不足であり、寮を用意して、他の地域から人材を引っ張ってこないといけない状況になっている。特に、地方は東京と異なり、流しで乗客が拾いにくい状況であり、共同配車対応することも必要であると考えている。今後はタクシー事業者で検討・調整していく必要があると思う。

(委員)

事務局として関係者に集まっていただき、調整などをしていただくことは可能か。

(事務局)

過去には事業者を交えた勉強会をしていたこともある。タクシー業界の関係者で集まって議論いただければと思う。

(会長)

ほかに意見が無いようなので、本日の意見を計画に反映していただきたい。

### (3) 閉会

(事務局)

本日いただいた意見を計画に反映し、議会報告後、パブリックコメントを実施したい。次回が計画策定に係る最終会議となり、2月中旬の開催を予定している。議題については、パブリックコメントの意見を反映した計画案について議論していただきたいと考えており、その間、意見があれば適宜、事務局まで連絡いただきたい。